

● J8で要求されたこと

今年の「J8サミット」の広尾学園チームは、高校3年1名、2年4名、1年3名の構成でした。国内選考において、他の“一流校”が3年生をズラリと並べ、英語の面でも相当に優秀なメンバーがそろっていたにもかかわらず、広尾学園チームが日本代表に勝ち残れたのは“快挙”です。

その勝因を多くの方から聞かれますが、やはり“本当の学力”の差ではなかったかと私は考えています。入学選抜の方法を工夫するに当たり、「海外で頑張ってきた生徒を的確に評価したい」という姿勢を貫いてきたおかげで、学園に多様で個性の強い生徒が集まり、活力を生んでいるようです。時には苦勞したり悩んだり、辛いことにも遭ったりしますが、皆で力を合わせて乗り越えていく喜びや感動を大事にしています。

「楽しくなければ学校じゃない」とよく言われますけど、こうした喜びや感動の体験の積み重ねで培われる学力が、グローバル化社会に最も求められているのではないのでしょうか。



野球部の練習（神宮グラウンド）

広尾学園中学校高等学校
（前、順心女子学園中学校高等学校）
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192
www.hiroogakuen.ed.jp

小山 和智

おやま かずと

広尾学園中学校高等学校 国際担当
（前、順心女子学園）



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>



カリフォルニア州カステリア高校との交流会

英語補習校だより（10） HOTS の仲間

8月25日（土）、テレビ日本の『海外子女・帰国子女』で「今、注目されている日本の英語補習校」が放送されました。

本誌編集長の松本輝彦さんは、英語補習校の“効果”として、(1) 英語の勉強が、日本語での学力の伸長に役立っている、(2) 海外の現地校などで読み書きをしっかりとってきた生徒は、帰国後の英語力も伸ばせる、(3) 帰国後の生活適応で苦勞している帰国生に活力を与えている、の3点を紹介されています。

このことは海外の日本語補習校で学ぶ子供たちの状況とよく似ていますね（ちょうど裏返しです）。日本語補習校が日本語学校ではないように、英語補習校は英会話学校でも英語塾でもありません。松本さんは「いわば日本における日本語補習校の英語版」とも説明されましたが、帰国後の英語の保持ではなく、ネイティブのレベルで（年齢相応の英語による）学力を伸ばすのが目的なのです。

ABCD 学院（東京都渋谷区）、EFFECT（横浜市青葉区）、広尾学園の「国際英語」などの HOTS(Higher Order Thinking Skills) の仲間がもっと増えていけばいいですね。

注）HOTS については、下記のサイトを開くと 広尾学園での松本先生の講演風景がご覧になれます。

<http://www.effect.ne.jp/home/modules/xfsection/article.php?articleid=122>



このコラムの愛読者の皆さんは、すでにお気づきだと思いますが、「小山先生は、結構、ものをはっきり言う人です。」時たま、その口で失敗するくらい！（長年の付き合いで、私、知ってます。）今回も、「入試」と「小論文」について「一刀両断！」。小論文の情報は、海外入試の受験生へのサービス？

でも、J8 については遠慮気味？（本当は、もっと書きたい？）実は、この日本代表チームのメンバーの一人 A さんは、私のよく知っている海外生。先日会った時、A さん「写真見る？」私「え、これ今の首相？」A さん「そう、この前会ったの」。J8 って、大変な会議だったんです。

皆さんも、一度、ホームページで見てあげてください。

<http://www.j8summit.com/japan/pages/5/363>